



千住明が全曲作編曲を手掛け、指揮し
千住真理子が全曲にわたり奏でる
フル・オーケストラと共に贈る
華麗なる千住兄妹の世界

デビューから50年のヴァイオリニスト人生。
山あり谷ありの険しい道のりを、疾走したり歩いたり、時に道に迷い遭難すればひとに助けられ、涙流せば友達がそばにいてくれた。
苦楽を共にした父母も恩師も、今はもういないけど、相棒ストラディヴァリウス“デュランティ”がいてくれる。
いま奏でる音は、この50年のわたしの全て。
この音色をあなたの心に届けたい。精一杯の「ありがとう」をこめて――

真理子 千住真理子

2025年に妹・真理子は50周年を迎え、僕もプロとして活動40年を迎える。
この10年の間は僕にとって真理子のスタートと共に経験し、そしてその中から自分の進むべき道を確認できた10年だった。それから、自分たちの世界を見つけるべく、それぞれの活動と共に兄妹で追ってきた、かけがえのないもう一つの活動が僕達の根底にある。僕たちの周年をそのプログラムから始めたい。

Akira Senju 千住明

千住真理子 Mariko Senju, Violin

2歳半よりヴァイオリンを始める。全日本学生音楽コンクール小学生の部全国1位。NHK交響楽団と共演し12歳でデビュー。日本音楽コンクールに最年少15歳で優勝、レウカディア賞受賞。パガニーニ国際コンクールに最年少で入賞。2002年秋、ストラディヴァリウス「デュランティ」との運命的な出合いを果たし、話題となる。2020年は近年発見されたイザイの未完のソナタを新たに録音し、その楽曲を加えたイザイ無伴奏ソナタ全曲「心の叫び」〈完全版〉を再リリース。春には「ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ全集 Vol.2」をリリースした。2023年11月に千住明のプロデュースによるアルバム「ARIAS」をリリース。また山田洋次監督作品「こんにちは、母さん」のサウンドトラックに参加。2024年は9月にデビュー当時の音源を収録したベスト&レア・アルバムをリリース。2025年はデビュー50周年を迎え、全国で演奏会を予定。コンサート活動以外にも、講演会やラジオのパーソナリティを務めるなど、多岐に亘り活躍。また、チャリティーコンサート等、社会活動にも関心を寄せている。著書は「聞いて、ヴァイオリンの詩」(時事通信社、文藝春秋社文春文庫)母との共著「母と娘の協奏曲」(時事通信社)など多数。
千住真理子オフィシャル・ホームページ <https://marikosenju.com/>

千住明 Akira Senju, Conductor

1960年東京生れ。幼稚舎より慶応義塾で学び、慶応義塾大学工学部中退後、東京藝術大学作曲科卒業。同大学院首席修了。修了作品「EDEN」(1989)は史上8人目の東京藝術大学買上となり、同大学美術館に収蔵されている。
代表作にピアノ協奏曲「宿命」(ドラマ「砂の器」劇中テーマ曲)、「四季」(羽田空港国内線第2ターミナル)、詩篇交響曲「源氏物語」、オペラ「万葉集」「滝の白糸」、「カレンダー組曲」等。
ドラマ「ほんまもん」「風林火山」「VIVANT」、映画「愛を乞う人」「黄泉がえり」「追憶」「こんにちは、母さん」、アニメ「機動戦士Vガンダム」「鋼の錬金術師FA」、NHK「日本映像の20世紀」「ループル美術館」NHKスペシャル「世紀を越えて」「平成史」「新・ドキュメント太平洋戦争」、TV「アイアンシェフ」、CM「アサヒ スーパードライ」、中国ミュージカル「白夜行」、ゲーム「TRIANGLE STRATEGY」等。音楽担当作品は数多い。日本アカデミー賞優秀音楽賞4回受賞等受賞歴多数。2019年には、天皇陛下御即位三十年記念式典にて天皇皇后両陛下による著作歌曲「歌声の響」の編曲とピアノを担当。三浦大知、千住真理子と共に記念演奏を披露。
東京藝術大学を中心とした音楽と美術の制作グループ「Senju Lab」主宰。東京藝術大学客員教授。2025年に活動40周年を迎える。 <http://www.akirasenju.com>

神奈川フィルハーモニー管弦楽団 Kanagawa Philharmonic Orchestra

地域に密着した音楽文化の創造をミッションとして、神奈川県全域を中心に全国各地で幅広い活動を行っている。横浜・川崎を中心とした定期演奏会、県内各地を回る巡回公演などの主催公演を開催。音楽教育にも積極的で、小中学校での音楽鑑賞教室を全国各地で開催し、広い世代に音楽の魅力を伝え、また医療機関や特別支援学校への出張演奏も積極的に行っている。2020年には創団50周年を迎えた。指揮者陣は、音楽監督に沼尻竜典、名誉指揮者に現田茂夫、特別客演指揮者に小泉和裕を擁している。
www.kanaphil.or.jp